

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	4678700081
法人名	社会福祉法人陵風会
事業所名	グループホームわだつみ苑
訪問調査日	平成19年8月4日
評価確定日	平成19年12月27日
評価機関名	特定非営利活動法人NPOさつま

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。
番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載します。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入します。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけます。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容について記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日 2007年8月12日

[評価実施概要]

事業所番号	4678700081
法人名	社会福祉法人陵風会
事業所名	グループホームわだつみ苑
所在地	鹿児島県奄美市住用町大字西仲間字前田146番地3 (電 話) 0997-56-3777
評価機関名	特定非営利活動法人NPOさつま
所在地	鹿児島市下荒田2-48-13
訪問調査日	平成19年8月4日

[情報提供票より] (19年7月27日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 17年8月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	8 人	常勤 2人, 非常勤 6 人, 常勤換算 8人	

(2) 建物概要

建物構造	木造平屋建造り
	1 階建ての 1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃 (平均月額)	10,000 円	その他の経費 (月額)	円
敷 金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食 300 円 夕食 300 円 または1日当たり 1,000 円	昼食 300 円 おやつ 100 円	

(4) 利用者の概要 (7月27日現在)

利用者人数	8 名	男性	2 名	女性	6 名
要介護1	3 名	要介護2	2 名		
要介護3	2 名	要介護4	1 名		
要介護5	名	要支援2	名		
年齢	平均 87 歳	最低	74 歳	最高	104 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	名瀬徳洲会病院、奄美市立住用診療所 (内科・歯科)
---------	---------------------------

[外部評価で確認されたこの事業所の特徴]

当ホームの近隣には、奄美市の住用支所や奄美市営住用診療所、派出所、公営住宅などがあり、利用者にとって地域と密着した生活がしやすい環境になっている。管理者はじめスタッフは地域に開かれた運営を心がけ、地域住民や利用者の家族等がボランティア活動で支援している。利用者はそれぞれが自分のありのままの生き方が支援され、のびのびとゆとりある生活をしており、表情も豊かである。

[重点項目への取り組み状況]

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況 (関連項目: 外部4)
	家族等への情報伝達については、改善努力が引き続き求められる。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況 (関連項目: 外部4)
	自己評価・外部評価の意義を確認し、サービスの質の向上に活かされることが求められる。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み (関連項目: 外部4, 5, 6)
	地域の参加者から地域交流を深める方向での提言や、地域行事にホームを利用して欲しいなどの要望も出され、実現に向けて取り組みがなされている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映 (関連項目: 外部7, 8)
	家族等と緊密な連携をとり、要望や意見を汲み取り実践するように取り組んでいる。家族会がボランティア活動を話し合いホーム職員と一体になって支援している。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携 (関連項目: 外部3)
	地域の集落から交代にお茶飲みやボランティアに交互に来て交流している。地域に住む利用者の家族が、孫・曾孫連れで来て、ホームの利用者すべてと折り紙を作ったり、ホームで採れた野菜を地域にあげたり、地域の人が持ってくるなど交流している。一人で散歩に出かけた利用者を地域の人が連れてきてくれるなど、地域と一体となった生活が築かれつつある。

2. 評価結果(詳細)

(☐ 部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅰ. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「自分らしい普通の生活」を基本理念の中心にした理念を掲げ3項目の具体策をつくり、その人らしい生活を支えるようにしている。地域密着型サービスとしての理念作りはこれからである。	○	地域密着型サービスとしての理念作りが求められる。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員会議等の中で管理者は理念と運営方針を周知し実践するように指導している。職員も利用者の「自分らしい普通の生活」を実現するために、日々取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の集落から交代にお茶飲みやボランティアに交互に来て交流している。地域に住む利用者の家族が、孫・曾孫連れで来て、ホームの利用者すべてと折り紙を作ったり、ホームで採れた野菜を地域にあげたり、地域の人が持ってくるなど交流している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価の意義について深くは取り組む機会が無く、管理者中心に数名で取りまとめをした。	○	自己評価・外部評価の意義を確認し、全職員で共有しサービスの質の向上に取り組むことが求められる。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	18年度19年度とそれぞれ1回ずつ開催されて、地域の参加者から地域交流を深める方向での提言や、地域行事にホームを利用させて欲しいなどの要望も出され、実現に向けて取り組みがなされている。地域ボランティアによるホーム周辺の草刈活動は第三日曜日に決定している。	○	年間計画の中での数回の定期的開催が望まれる。

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議以外の連携は、これから取り組む段階である。	○	市町村担当者との連携が求められる。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の来訪時に、情報提供をしているため、利用者の家族等との電話連絡はしているが、文書による個々の日常生活の情報や、金銭管理の情報は発信していない。	○	管理・運営・サービスの提供など、管理者・職員や一生懸命取り組んでいる内容が家族等に伝わるように、こまめな情報提供が求められる。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族等と緊密な連携をとり、要望や意見を汲み取り実践するように取り組んでいる。家族会がボランティア活動を話し合いホーム職員と一体になって支援している。	○	重要事項説明書に相談先の電話番号の記載が望まれる。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	運営母体の人事異動により、管理者や職員の異動があり、法人としては入居者へのダメージを防ぐよう配慮しているが、ダメージは避けられない。	○	人事異動によるダメージに配慮した取り組みが求められる。
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新規採用職員研修、現任研修など研修機会をとらえて実施している。大島地区グループホーム協議会の研修にも参加している。	○	復命研修など研修で習得した情報や技能の共有化や計画的な育成が望まれる。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	奄美大島本島内のグループホームへの訪問や派遣研修をし、今度も8月中に交流を予定している。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	職員が地元出身で、地域の入居希望者等と馴染みの関係がある場合が多い。また、相談があった時点から見学や訪問など馴染みの関係を深めるように配慮している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者の生活歴や情報を把握して、ホームでのいろいろな場面で、本人の力を発揮できるようにしている。菜園での野菜の育て方、料理の仕方、折り紙、食事の準備や後片付けなど、できることや、知っていることをみなが学びあうようにして、喜びや楽しみ共有しながら支えあっている。		
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ゆったりした時間の中で、会話や表情など介護を通じて一人ひとりの思いや意向を収集し、職員みんなで共有している。困難な場合は、家族等の考え方を参考にしたり、本人本位で進めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	利用者への日常介護の中からや家族との面会時の会話の中から、本人や家族の希望や意向を把握して、ケア会議で皆の意見を反映した介護計画を作っている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	ケア会議で意見を出し合い定期見直しや状態変化時の見直しをしている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	外出支援・理美容院への支援・受診の支援・墓参りや自宅訪問など本人や家族の要望に応える支援をしている。また、家族会以外にもホームを使用できるようにしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族の希望するかかりつけ医に受診できるように支援している。状態変化時には協力医療機関との連携も取れるように体制もできている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	職員体制に看護職員がいないので、終末期の介護を受け入れるとの決定はしていないが、終末期支援の方向性はある。現状は個々の状況に応じて、家族等と話し合っている。	○	ホームとして重度化や終末期への支援の方針を固めて、家族や主治医等と連携し、方針を共有することが求められる。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	排泄支援や入浴支援など介護の場で気付かないうちに、利用者を傷つけることの無いように、一人ひとりの尊厳やプライバシーに細心の配慮をしている。個人情報の保護については契約書で守秘義務を規定し、職員は就業規則で誓約している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床や食事、入浴、グループ活動など個々人の希望やその人のペースで生活できるように支援している。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の希望をとり、一緒に準備をしたりしながら、職員も同じ食事を共に食べ、会話や支援をしながら和やかに食事を楽しんでいる。職員はおもてなしの気持ちで食事に係わりをしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	本人の希望で自由に入浴できるようになっている。暑い時など一日に何回も利用できる。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	茶碗やお盆拭き、洗濯物たたみ、もやしのひげ取りなどの炊事の下準備、利用者同士の世話など本人のできることで、できそうなことをできるだけ取り組めるように支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	近くの生まれ育った集落訪問、隣接の診療所受診、近隣の散歩、犬の散歩などその日の状況によって一人ひとりが戸外に出かけられるように支援している。単独外出の時などたまには地域の人と一緒にホームまで連れてきてくれることもある。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夜勤帯の時間以外は、利用者や家族に心理的圧迫をかけないように、ホームは常時オープンにして、自由な暮らしを支援している。個室は原則鍵をかけないようにしているが、特定の希望者は自分で安心のため内鍵を使用している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害時備蓄や、災害対策の機器等の整備も進められている。防火・避難等訓練を年1回実施している。訓練時に地域住民も参加し、連携している。	○	夜間想定訓練を実施することが望まれる。

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の摂取量を記録し把握している。水分の摂取量は一日のおよその量を把握している。健康状態や食事摂取機能の状況にも配慮し支援している。	○	食事の栄養バランスについては、専門家の助言をもらうなどの工夫が望まれる。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関はオープンで出入りしやすく、ホールには家具調の収納箱や、奄美の風土に根ざした植物や糸織り機などの民具が置かれ、厨房の機器も家具調で居心地の良い空間となっている。また、ホールには畳のスペースも設けられており、くつろぎの場となっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたテレビや衣紋懸けなどの生活用品や、位牌、家族の写真など思い出の品々などを持ち込みその人らしい居心地よく過ごせる居室作りが工夫されている。		